



しみんの広場

CITIZEN'S PLAZA

もくじ

- スナメリから海の世界を学ぼう 2ページ
- たねの簡単&おもしろ『産直レシピ』 3ページ
- 地域の話（校区対抗交流スポーツ大会） 4ページ
- 市民活動を応援するページ 5ページ

市民発!

スナメリから海の世界を学ぼう

広報サポーターだよ

皆さん、こんにちは。広報サポーターの鈴木理絵です。自然豊かな渥美半島では、沿岸部にスナメリという準絶滅危種に指定される小型のイルカが生息しています。今回は、広報サポーターの河合恵さんと一緒に、スナメリウォッチングに参加してきました。



●キラキラ輝く伊良湖港



●いざ出航!



●少し濁って見えた篠島付近の海

鈴木理絵

▲船上からの写真撮影・取材協力（広報サポーター 河合恵）

スナメリウォッチングに私たちが参加した日は、遠くまでよく見渡せる快晴でしたが、風が強く白波も立っていました。あらかじめ、スナメリくらぶの会員で船長の金原さんから「今日はちよつと観察するのは難しいんじゃないかな」と言われていました。スナメリには、イルカのような特徴的な背びれがなく、色も明るい灰色をしているため、波とほとんど区別がつかないそうです。出航直前まで、波の少ない海域や進路を考えてくれましたが、結局この日はスナメリを観察することはできませんでした。

スナメリくらぶは、10年ほど前に地元の人たちを中心に結成された有志の会で、現在は20人ほど。スナメリウォッチングを始めたきっかけを伺うと、「スナメリに触れてほしいという気持ちもあります。それ以上に三河湾の海の現状を見て

欲しかったからです」と話してくれました。

スナメリは、三河湾や伊勢湾のほか、銚子沖や瀬戸内海などでも生息が確認されています。生息域は、海岸に近い水深50m以内の遠浅の海で、観察に適している反面、人間の生活に影響を受けやすい動物ともいえます。

現在、三河湾と伊勢湾で、スナメリは約2000頭いるとされていますが、年々減ってきているそうです。その原因の一つは、人が捨てたビニールやタバコの吸殻などのごみ。これらを餌と間違えて飲み込み、消化不良を起こして死んでしまうのだそうです。ニュースなどで、死んだスナメリなどが砂浜に漂着したという話を聞いたことのある方もいると思います。実際、伊良湖港には、空き缶やタバコの吸殻などが水面に浮かんでいました。

